

青森分局初めての分収育林販売への取組と今後の課題について

三陸中部森林管理署 総務課長 ない き ひろ みつ
○総務係長 ささき し げ る
収獲係長 い とう ま こ と
伊 藤 ま こ と

I はじめに

・分収育林の林分現況 別紙1

分収育林制度は、国民参加の森林づくりにより、国有林の森林整備を促進することを目的として、昭和59年度に制度が発足した。全国では約8万6千人のオーナーが参加し、総口数は約10万口、総面積は約2万5千ha、総金額は約500億円となっている。

・三陸中部森林管理署分収育林現況表 別紙2

当森林管理署の分収育林は、契約箇所数は33箇所、契約面積は114ha、総口数は396口、総金額は1億9千8百万円となっている。これまで数多くのオーナーの方々の協力をいただいて整備してきた森林は、国土の保全、水資源の確保及び二酸化炭素の吸収・固定による地球温暖化防止等公益的機能発揮の面で重要な役割を果たしてきた。

II 分収育林箇所の概要

・平成12年度分収育林箇所位置図 別紙3

所在地は、当森林管理署より北方約25kmの位置に在り、岩手県釜石市橋野第一国有林357林班は2小班である。当該分収育林の平均傾斜は20度、土壌は適潤性黒色土及び年平均降雨量は約1,550mmの冷温帯でスギの適地となっている。また、林道に隣接し、公道まで1km以内と地理的な面では上位にあるが、分収育林直下方が「橋野高炉跡」として、史跡名勝天然記念物に指定されているため、集材等作業が規制されている。

・分収育林販売箇所の個別概要 別紙4

契約年度は昭和60年度（昭和60年12月26日）、契約時の分収育林価格は10,013,529円、契約口数は20,49口（内訳は国：10,49口、オーナー10,00口）、1口当たりの募集金額は50万円、分収年度は平成12年度、契約者数は9人、契約口数は10口、契約期間は16年、契約面積は2,79ha、林令は35年、主たる樹種はスギ、材積は674m³及び管理経営計画の間伐は平成2

年度、主伐は平成12年度となっている。また、今回の販売時点の本数は3,364本（対契約時81%）、材積は1,295 m³（対契約時192%）及び間伐は平成4年度に実施している。

III 課題を取り上げた背景

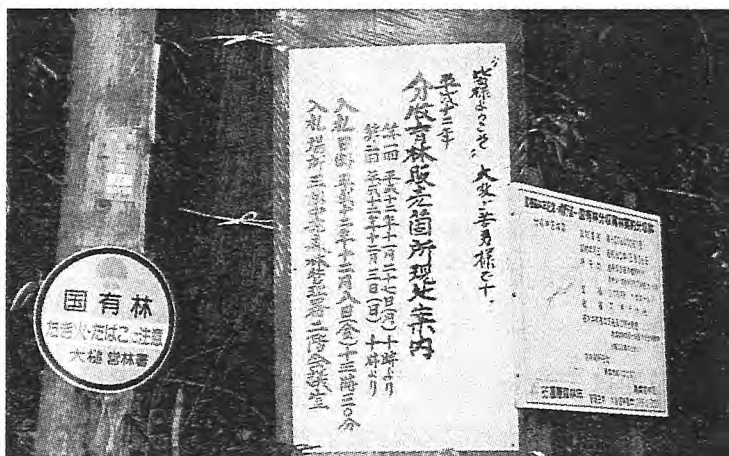
青森分局では、昭和60年12月26日に契約した当森林管理署管内の分収育林を昨年の12月8日、同制度発足以来初めて資格付一般競争入札により、当森林管理署において販売することとした。

・ 全国平均山元立木価格の推移 別紙5

昨今、山元立木価格が1 m³ 当たり分収育林契約時価格約15,200円に対し、今回の販売時価格約8,200円と半値近く（対契約時54%）まで下落し、地域の林業活動が減退しているなど、大変厳しい販売環境下でオーナーの費用負担額を確保できるのか否かについて、オーナーの方々はもとより、マスコミ及び地域住民からも大変注目されていた。

写真1

分収育林販売箇所現地案内
標識板設置状況 写真1



買受希望者に対する現地
案内実施状況 写真2

特に、地元テレビ局においては、今回の分収育林販売に関して一連の特集番組を編集するなど、現地案内時から木材業者に対しては、木材価格の現状と林業の実態等の現地取材、緑のオーナー会々長に対しては、分収育林制度そのものについての意見等の自宅取材及び当署長に対しては、分収育林制度の現状認識等について、現地及び署内で数次に渡って取材が行われた。

このような周囲の取り巻

写真2



写真3



きの中で、当森林管理署としては、オーナーの費用負担額以上の確保を目標に据え、全職員一致一丸となって、販売PRに積極的かつ最大限取り組んでいくこととした。

・
林業事業者に対する現地の取材状況 写真3

写真4

・
オーナー会々長から署長に対し、取材内容を報告している状況 写真4



写真5



・
署長に対する現地での取材状況 写真5

写真6

・
署長に対する署内での取材状況 写真6



IV 研究方法及び経過

- ・ 分収育林販売プロジェクトチーム 別紙 6

～販売PR実施計画表～

分収育林の販売に当たっては、先ず、当森林管理署内に「分収育林販売プロジェクトチーム」を設置し、署長を先頭に全職員の参加と士気の高揚を図るため、次の5項目を重点にPRを実施していくこととした。

- ・ 分収育林販売プロジェクトチーム重点5項目 別紙 7

1 地域割により、PRの主体性を発揮する。

署長を総括責任者とした3班編成とし、更に、署長、次長及びセンター所長をキャップに据え、現在の勤務地と過去の勤務地の「地」と「人」の利を活かし、それぞれが主体的かつ責任感をもって取り組むこととした。

- ・ 分収育林の分収木入札案内書送付先内訳表 別紙 8

- ・ 分収育林の分収木の立木販売のご案内 別紙 9

～第1弾・特製～

2 入札案内書は、カラー化の第1弾（特製）及び第2弾（通常）を作成し、送付先を広範囲に2回とする。

入札案内書は、通常は白黒、送付回数は1回としていたが、今回は、顧客に注目していただくため、2回に分けて送付する。第1弾はカラー化の分収育林特製のものとし、第2弾はカラー用紙使用の通常のもを送付する。また、送付者数は通常は60者前後であるが、今回は167者と通常の2.8倍とすることとした。

3 現地案内は、平日1回及び休日1回の2回とする。

現地案内は、通常は平日1回としていたが、顧客が参加しやすい条件をつくってやること及び販売に向けての心意気を理解していただくため、休日にも1回、合わせて2回実施することとした。

- ・ 分収育林の林木の特質 別紙 10

4 分収育林の林木の特質を強調する。

販売PRが生かされる最低の条件は、販売する林木の価値、つまり品質と需要度にあることに着目し、顧客に対して、当該分収育林の次の2項目の特質について積極的に強調していくこととした。

(1) 過去の間伐、隣接林分の伐採及び試験伐採において、スギノアカネトラカミキリ（通称：トビグサレ）の被害が全く見られなかったことから、品質は確保されていることをPRする。

(2) 昨今、木材需要が低迷する中であっても、スギの末口径16cmから26cm程度の需要が比較的堅調である。このことは、当地域内において、スギ集成材

工場が完備し、集成材管柱のラミナ材として当該末口径のものが品確性・経済性等から最適である。当地域外においては、輸入材のホワイトウッド管柱に、品確性・経済性等で対抗できるのは、スギ芯持管柱であり、当該末口径が最適とされている。今回販売する分収育林のスギ立木の平均胸高直径は26cmとなっており、需要先は確保されていることをPRする。

5 オーナーを対象に現地見聞会を開催する。

写真7

現地見聞後の意見交換実施
状況 写真7

今回販売する分収育林箇所のオーナーの方々を対象に、育林成果を現地で見聞させ、ご意見等いただき、分収育林制度に対する理解を深めてもらうため、現地見聞会を開催することとした。



V 研究の結果

- ・分収育林販売プロジェクトチーム販売PR実施計画表 別紙11
- ・気仙地区販売PR実施状況 写真8

分収育林販売のPRについては、入札案内書送付167者のうち61者については直接会って、「プロジェクトチーム」で決定した前記IVの5項目の内容を重点に、計画的かつ効果的に実施することができた。

写真8



また、61者以外の者については、電話等により実施した。

写真9



気仙地区販売PR

実施状況 写真9

写真10

青森県南津軽地区

販売PR実施状況

写真10



写真N011



花巻・遠野地区

販売PR実施状況

写真N011

写真N012

宮古・久慈地区

販売PR実施状況

写真N012



- ・ 分収育林販売入札事務等役割分担表 別紙12
- ・ 分収育林販売入札参加者受付状況 写真13

写真13

昨年の12月8日(金)
午後1時30分、当森林管理署2階会議室において入札を執行した。入札者数は31者と通常の3倍程度となった。その結果、落札金額は10,697,400円(消費税込み)、1口当たりの分収額は522,080円となり、費用負担額を22,080円上回った。



- ・ 入札執行直前の状況 写真14



写真14

山元立木価格が分収育林契約時価格の半値近くまで下落するなど、販売環境は大変厳しい状況にあった。

このため、すでに収育林の販売

を実施している福島県、鹿児島県、宮崎県及び長崎県などでは一部で高値があるものの、多くは85%から95%台の価格で落札するなど、費用負担額を割っている。

- ・ 分収育林販売入札結果表 別紙13

こうした中での今回の入札結果は、全職員挙げての販売PRの成果はもとより、当地域の林業事業者が国有林のこれまでの経営実績を評価してくれたことと、今後への期待が込められていたものと受け止めている。この心意気と姿勢を地元住民及びオーナーの方々にも十分理解していただけたものと思っている。

VI 考 察

・ 分収育林管理現況表（仮称） 別紙 1 4

今回の分収育林の販売については、費用負担額以上を確保するとの所期の目標を達成することができた。国有林の分収育林は、国民参加の森林づくりを推進するとともに、オーナーの方々に対し森林へのふれあいの機会の提供を行っていくことを目的としているが、生活プランの実現等投資的な意味合いもあることを今回の販売を通じて強く感じた。これらを踏まえ、今後、次の 2 項目の課題について、積極的かつ確実に取り組んでいく必要がある。

1 分収育林の適性管理をより一層推進する。

写真 1 5

・ 分収育林の適時適切な作業の実施

写真 1 5

～林内のかん木等を伐除し、陽光の差込みを必要とする箇所～
分収育林の現況と今後の管理経営が一目で分かる「分収育林管理現況表（仮称）」を作成し、適時に適切な作業等の実施に努め、より一層健全な林分を育成する必要がある。



2 木材需要の増大と林業活動の活性化をより一層推進する。

木材需要の低迷が、木材価格の下落と林業活動の減退を招いている。今後、分収育林の販売が増加していくが、どのような施策をもって、木材需要の増大と林業活動の活性化を図っていくかが緊急かつ最大の課題である。これらを積極的に推進する必要がある。

・ 現地見聞会終了後

不安を余所にホット一息記念撮影 写真 1 6



このことが、費用負担額

以上の確保と跡地の早期更新にも確実に繋がっていくものと考えている。

VII おわりに

今回の分収育林の販売を通じて、オーナーの方々はもとより、地域林業事業者が国有林を信頼し期待していることを直接肌で感じ取った。その代表的な2つの事例を紹介する中で、国有林の果たすべき役割の重要性を再確認し、今後、当流域林業の活性化と地域の振興に努めて参りたいと考えている。

- 1 現地見聞会において、オーナーの一人がこう言った。数十年前、分収額を受け取るころは、私は会社を定年退職になっているので、元金の50万円は再び国有林の森林整備に協力し、残り夫婦旅行を夢見て投資した。私の夢が実現するように頑張ってもらいたい。このことは、国有林の分収育林制度に理解を示してくれている証しである。
- 2 今回の入札結果は、材価低迷の中で、費用負担額を確保できたことは、当地域の林業事業者が国有林のこれまでの経営実績を高く評価してくれたことと、今後への期待が込められていたものと受け止めている。このことは、国有林の分収育林制度はもとより、経営姿勢そのものについて理解を示してくれている証しでもある。

以上で発表は終わるが、今回の分収育林の販売に当たって、分局及び隣接署等のご指導ご支援をいただいたことに対し感謝している。また、入札に参加していただいた林業事業者に対して、感謝の意を込めた礼状を郵送した。

- ・ 地元新聞社「東海新報」の

分収育林販売に関する報道内容 別紙15

- ・ 分収育林入札参加者への礼状 別紙16

別紙1 分収育林の林分状況

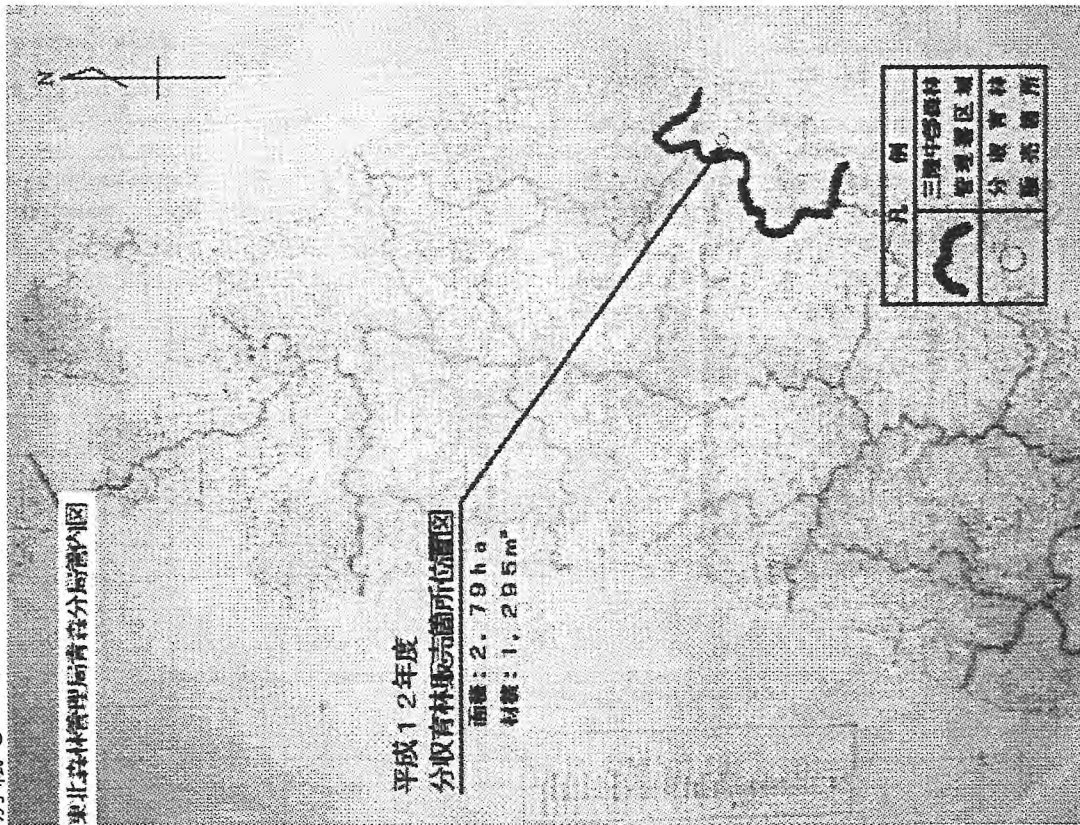


別紙2

三陸中部森林管理署分収育林現況表

平成12年12月1日
三陸中部森林管理署

種別 地区	契約箇所 (数)	契約面積 (ha)	総口数	内 訳			契約締結 始終年度	備考
				国	オーナー	オーナー人数		
大船渡	22	80.4158	519.35	247.35	272.00	227	昭和60年度 ～ 平成10年度 500,000×272= 136,000,000	
大槌	11	33.5263	232.54	108.54	124.00	100	昭和60年度 ～ 平成6年度 500,000×124= 62,000,000	
計	33	113.9421	751.89	355.89	396.00	327	198,000,000	



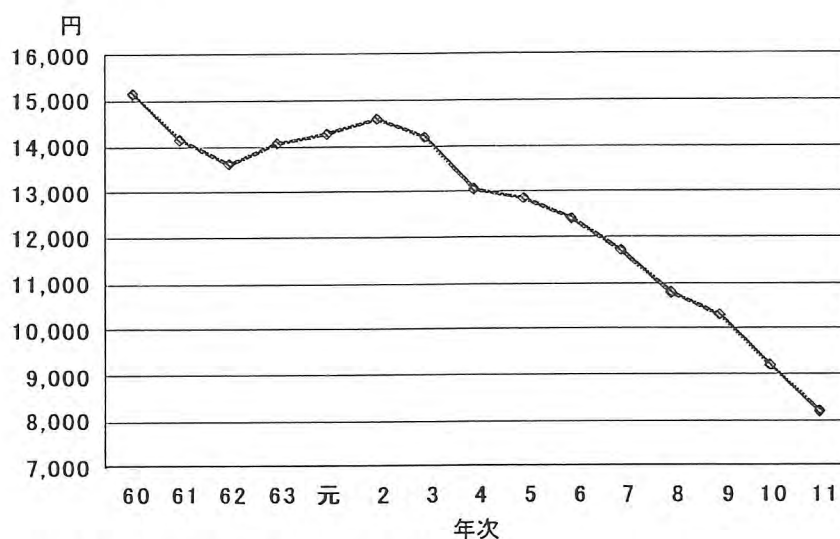
分収育林個別概要

三陸中部森林管理署

- 契約時の内容
- 1 所在地 岩手県釜石市 橋野第一国有林357は2林小班内
 - 2 契約年度 昭和60年度 (S. 60. 12. 26)
 - 3 分収育林価格 10,013,529 円
 - 4 総口数 20.49 口
(内訳)
 - ・ 国の持分口数 10.49 口
 - ・ 契約者持分口数 10.00 口
 - 5 1口当たりの集金額 50 万円
(内訳)
 - ・ 1口当たりの費用負担額 488,750 円
 - ・ " 保険料額 11,250 円
 - 6 分収年度(主伐) 平成12年度
 - 7 契約者、契約口数及び契約期間
 - ・ 契約者 9人
 - ・ 契約口数 10口
 - ・ 契約期間 16年
 - 8 分収林分内容
 - ・ 面積 2.7892 ha
 - ・ 林齢 35年
 - ・ 樹種 スギ(96%) アカマツほか(4%)
 - ・ 材積 674 m³
 - 9 管理経営計画
 - ・ 間伐 平成2年度
 - ・ 主伐 平成12年度
- 現時点の内容等
- 1 分収林の本数及び材積
 - ・ 本数 3,364 本 (対契約時 81%)
 - ・ 材積 1,295 m³ (" 192%)
 - 2 履歴 間伐 平成4年9月
 - 3 販売予定価格 円 (消費税抜き 対契約時 %) (約 万円/1口)

別紙5 全国平均山元立木価格の推移

年次	スギ
60	15,156
61	14,144
62	13,623
63	14,071
元	14,282
2	14,595
3	14,206
4	13,060
5	12,874
6	12,402
7	11,730
8	10,810
9	10,313
10	9,191
11	8,191



資料：(財)日本不動産研究所「山元素地及び山元立木価格調」
 注：山元立木価格とは、伐採する前の立木状態での木材価格で、最寄りの木材市場渡し
 の丸太価格から、伐採や搬出等の生産諸経費を差し引いた価格である。

別紙6

分収育林販売プロジェクトチーム

平成12年11月14日

販売PR実施計画表

三陸中部森林管理署

総括	班名	班員	管轄 森林管理(支)署	市 町 村	案内書送付		実 施 日	備 考
					対象者数	実施者数		
署長	第1班	○署長 収穫係長 総務係長	三陸中部	大船渡市、陸前高田市、住田町、三陸町	21	18	11/10~12/7	実施者以外の対象者については
				盛岡	12	4	11/27~12/4	電話による入札参加依頼要請
				津軽	5	3	12/6~12/7	
				岩手北部	11	5	11/27~12/7	
				県外	9	-		
				計	58	30		
	第2班	○次長 総務課長 田口技官	岩手南部	一関市、北上市、花巻市、大迫町、水沢市ほか	55	10	11/29~12/5	
				久慈	7	4	11/24	
				遠野	15	11	11/30	
				計	77	25		
	第3班	○センター所長 永瀬森林官 澤館事務官	三陸中部	釜石市、大槌町	11	4	11/13~12/5	
				三陸北部	14	2	11/1~11/24	
				宮城北部	7	-		
				計	32	6		
	合 計					167	61	
(摘 要) 1 案内書送付先のうち、主要な者については直接出向いて販売内容を説明することとし、それ以外の者については電話等により入札参加をお願いする。 2 実施日については、事前に案内書送付先の代表者等と連絡をとりながら、班員の都合等も考慮し調整のうえ決定する。 3 主要な者についてのPR結果の反応等を記録する。 4 実施日数は、一班当たり2~3日を目安に日掃りとする。								

販売プロジェクトチームの重点5項目

- 1 地域割りにより、PRの主体性を発揮する。
- 2 入札案内書は、カラー化の第1弾（特製）及び第2弾（通常）を作成し、送付先を広範囲に2回とする。
- 3 現地案内は、平日1回及び休日1回の2回とする。
- 4 分収育林の林木の特質を強調する。
- 5 オーナーを対象に現地見聞会を開催する。

分収育林の分収木の入札案内書送付先内訳表

三陸中部森林管理署

日時(予定) 平成12年12月8日(金) 13時30分より
 場 所 三陸中部森林管理署 2階会議室
 数 量 区域面積 2.79ha
 樹種及び材積 スギほか 1,295m3

県名	管轄管理(支)署	市町村	送付者数			備 考
			今回	通常	増減	
岩手県	三陸中部	大船渡市	6	4	2	
		陸前高田市	3	1	2	
		釜石市	5	5	0	
		住田町	11	11	0	
		三陸町	1	1	0	
		大槌町	6	6	0	
		小計	32	28	4	
	岩手北部	二戸市ほか5	11	2	9	
		小計	11	2	9	
	盛岡	盛岡市	8	3	5	
		紫波町ほか3	4	1	3	
		小計	12	4	8	
	三陸北部	宮古市	6	5	1	
		山田町	3	2	1	
		新里村	3	1	2	
		川井村	2	1	1	
	小計		14	9	5	
		久慈支署	久慈市	7	2	5
	小計		7	2	5	
		岩手南部	一関市	5	1	4
	北上市		7		7	
	花巻市		14		14	
	大迫町		5		5	
水沢市ほか12	24		1	23		
小計		55	2	53		
	遠野支署	遠野市	15	7	8	
小計		15	7	8		
	青森県	津軽	黒石市ほか1	5	2	3
小計		5	2	3		
宮城県	宮城北部	東和町ほか5	7	2	5	
		小計	7	2	5	
秋田県			6	2	4	
	小計	6	2	4		
その他の県		神奈川県ほか2	3		3	
	小計	3	0	3		
計			167	60	107	

— 第一弾 (特製) —

分収育林の分収木の立木販売のご案内

東北森林管理局 青森分局 三陸中郡森林管理署では、分収育林制度発足以来初めて主伐期を迎えた分収木の立木販売を資格付一般競争入札により行うので皆様のご参加をお願いいたします。
入札の日時、場所及び数量等は次のとおりです。

- 1 入札日時 平成12年12月8日(金) 13時30分開札(郵便入札は12時締め切り)
- 2 入札場所 三陸中郡森林管理署 2階会議室
- 3 物件所在地 岩手県釜石市橋野町宇橋野第一国有林357は2株小班(旧大畑営林署管内) 2.79 HA
- 4 区域面積 50年(林齢は内前記録に基づいたもので、実際の林齢とは合致しないこともあります。)
- 5 林 齢 24ヶ月
- 6 搬出期間 24ヶ月
- 7 樹種、本数及び材積等

樹種	一般材		低質材		計		主要樹種別本数内訳	
	本数(本)	材積(m ³)	本数(本)	材積(m ³)	本数(本)	材積(m ³)	径断\樹種	スギ アカマツ
スギ	2,052	1,104	772	143	2,824	1,247	14cm	36本
							16	78
							18	117
							20	205
							22	183
							24	240
							26	211
							28	228
							30	221
アカマツ	20	13	22	10	42	23	32	156
							34	140
							36	90
							38	64
							40	35
							42	22
その他広			498	25	498	25	44	19
							46	4
							50	2
							54	1
計	2,072	1,117	1,292	178	3,364	1,295		2,052

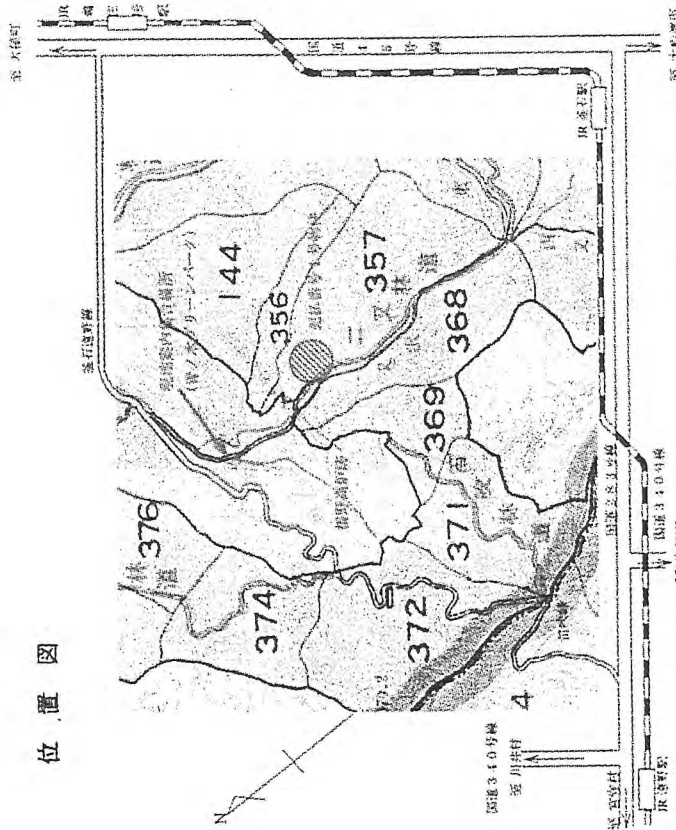
8 位置及び現況 別紙のとおりです。

※ このことに関するお問い合わせは、次のところをお願いいたします。

三陸中郡森林管理署

TEL 0192-26-2161 FAX 0192-26-4279

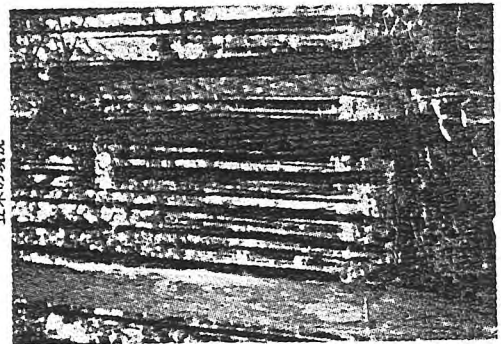
位置図



立木の現況



立木の現況



分収育林の林木の特質

- 1 過去の間伐、隣接林分の伐採及び試験伐採において、スギノアカネトラカミキリ(通称：トビグサレ)の被害が全く見られなかった。よって、品質は確保される。
- 2 当地域内において、スギ集成材工場が完備し、集成材管柱のラミナ材として最適である。また、当地域外においては、輸入材のホワイトウッド管柱に対抗できるのはスギ芯持管柱であり、末口径26cm程度が最適である。よって、需要先は確保される。

分収育林販売プロジェクトチーム

販売PR実施計画表

平成12年11月14日

三陸中部森林管理署

総括	班名	班員	管轄 森林管理(支)署	市 町 村	案内書送付		実施日	備 考	
					対象者数	実施者数			
署長	第1班	○署長 収穫係長 総務係長	三陸中部	大船渡市、陸前高田市、住田町、三陸町	21	18	11/10~12/7	実施者以外の対象者については 電話による入札参加依頼要請	
			盛岡	盛岡市、西根町、紫波町、雫石町、宮守村	12	4	11/27~12/4		
			津軽	黒石市、大鰐町	5	3	12/6~12/7		
			岩手北部	二戸市、安代町、岩手町、西根町、葛巻町、一戸町	11	5	11/27~12/7		
			県外	神奈川県、栃木県、福島県、秋田県	9	-			
			計		58	30			
	第2班	○次長 総務課長 田口技官	岩手南部	一関市、北上市、花巻市、大迫町、水沢市ほか	55	10	11/29~12/5		
			久慈	久慈市	7	4	11/24		
			遠野	遠野市	15	11	11/30		
			計		77	25			
	第3班	○センター所長 永瀬森林官 蒲館事務官	三陸中部	釜石市、大槌町	11	4	11/13~12/5		
			三陸北部	宮古市、山田町、新里村、川井村	14	2	11/1~11/24		
			宮城北部	古川市、湊山町、東和町、一迫町、鶯沢町、若柳町	7	-			
			計		32	6			
	合 計					167	61		
	(摘 要) 1 案内書送付先のうち、主要な者については直接出向いて販売内容等を説明することとし、それ以外の者については電話等により入札参加をお願いする。 2 実施日については、事前に案内書送付先の代表者等と連絡をとりながら、班員の都合等も考慮し調整のうえ決定する。 3 主要な者についてのPR結果の反応等を記録する。 4 実施日数は、一班当たり2~3日を目安に日帰りとする。								

分収育林入札事務等
役割り分担一覧表 (分育公売関係)

三陸中部森林管理署

業務内容	日時	担当者			摘要
		責任者	主査	補助者	
1. 会場準備	7日16～	総務課長	会計係長	全職員	
2. 入札案内掲示	16～	総務課長	総務係長		
3. 郵便入札対応	8日～12	総務課長			
4. 受付	12半～	総務課長	会計係長	取援係長 薄田	
5. 駐車場指示	12半～	治山係長	林下		
6. 来客者へのお来出し	12半～	総務係長	只野	神永	
7. 来客者へコーヒー	13半～	総務係長	只野	神永	
8. 入札注意書等説明	13半～	署長	総務課長		
9. 入札執行	13半～	署長	総務課長	会計係長 総務係長 所長	
10. 入札結果届へ連絡	終了後	次長	総務課長	会計係長	
11. 入札結果響チェック	終了後	次長	総務課長	会計係長	
12. 契約関係打合せ	終了後	総務課長	会計係長	総務係長	
13. オナーナーへ電話連絡	助ら連絡	次長	取援係長	田口	
14. オナーナーへ郵送通知	助ら連絡	総務課長	総務係長	会計係長	
15. マスコミ対応	随時	署長	次長・所長		
MEMO					

分収育林入札結果表

平成12年12月8日

所在市町村	岩手県釜石市
森林管理署	三陸中部森林管理署 (橋野第一国有林357は、林小班)
契約年度	昭和60年度
主伐年齢	50年生
樹種	スギ外
面積	2.79ha
材積	1,295m ³
オナーナー数	9名
(全口数)	(20,49口)
オナーナー持分口数	10口
入札月日	12月8日
入札結果・入札枚数	落札・31名
落札金額 (消費税込み)	10,188,000円 (10,697,400円)
一口当たり分収額 主伐(今回) 間伐 計	522,080円 0円 522,080円

分収育林管理現況表

三陸中部森林管理署
平成12年12月1日現在

地区	番号	設定箇所所在地	面積(ha)	主たる樹種	契約時本数	契約時材種	オーナー人数	1口金額	口数			契約年月日	契約期間	5年度	間伐年度		その他年度	契約時価格(税抜き)	既償戻回数	支払済み分収額	備考			
									地	国	オナー				第1回	第2回								
	1	橋野第一357は2	2.79	スギ	4,143	674	9	50万	20	49	10	00	S60	12	26	16	H12	H02		10,013,529	1	0		
計																								
大																								
船																								
渡																								

第12814号 平成12年(2000年)12月12日(火曜日) 日刊



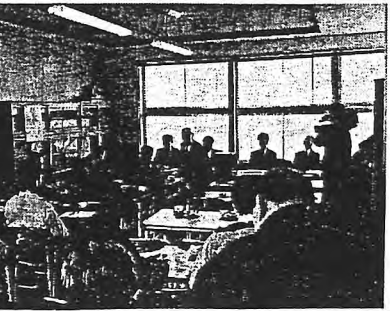
分収育林を初入札

木材価格低迷の中 元金を4%上回る

東北森林整備開発局(中)部森林管理署(橋野第一)は、分収育林制度(緑のオーナー制)発足以来、初めて(前期)平成10年を越えた収木の収穫を一般競争入札(入札)として、11日(土)にその結果を公表した。木材価格の低迷で収木の価値が低下している中、落札金額は一口(5万5千円)当たり5万5千800円となり、元金4.4%を上回った。

国育林の「緑のオーナー制」(通称「緑のオーナー制」)は、分収育林制度(緑のオーナー制)発足以来、初めて(前期)平成10年を越えた収木の収穫を一般競争入札(入札)として、11日(土)にその結果を公表した。木材価格の低迷で収木の価値が低下している中、落札金額は一口(5万5千円)当たり5万5千800円となり、元金4.4%を上回った。

この分収育林制度のシステムは、オーナーが指定した費用が契約後の育林の樹木価格(契約後の育林)に引き継がれ、契約期間が満了した時点で、契約期間中に発生した利益を、元金に上乗せして返還される。投資的な意味合いもあるが、オーナーに対し森林に与える健全な環境。毎年、緑のオーナーの20%の枠で、森林体験活動地(緑のオーナー体験地)を募集している。しかし、昨今の木材価格の低迷で契約額が、前年度に比べ約2割減少した。元金1万5千円に、平成11年度に6千円、平成12年度に5千円に引き下げられた。これは、木材価格の低迷による影響が大きいと見られる。入札者は21人。その結果、落札金額は3万8千800円(口当たり)で、元金1万5千円に比べて、元金4.4%の上回る。平成12年度の契約額は、約350万円の面積で、約200人のオーナーが参加した。これは、前年度に比べて、約2割減少した。これは、木材価格の低迷による影響が大きいと見られる。



発行所
東海新報社
〒022-0022 大船渡市大船渡町字角田
電話 番号 0182-27-1000
ファクス 0182-27-2154
電 話 口 02300-9-188
◎東海新報社

医療法人 ぎくた
菊田 泌尿器科
大船渡市橋野第一 三六四七五
自 宅 二七三三〇

- 東海新報販売店
- 大船渡市 店 ☎27-9846
 - 小 松 町 店 ☎28-3095
 - 工 藤 谷 店 ☎29-3050
 - 丸 田 谷 店 ☎25-1588
 - 大 船 渡 店 ☎27-3606
 - 大 船 渡 店 ☎26-2966
 - 三 浦 町 店 ☎27-1980
 - 持 木 町 店 ☎27-2364
 - 山 本 町 店 ☎26-3122
 - 大 船 渡 市 店 ☎55-2063
 - 大 船 渡 市 店 ☎55-2063
 - 大 船 渡 市 店 ☎54-4823
 - 山 金 野 町 店 ☎54-4773
 - 山 金 野 町 店 ☎55-5821
 - 山 金 野 町 店 ☎59-2160
 - 山 金 野 町 店 ☎59-2005
 - 大 船 渡 市 店 ☎54-4823

謹 啓

師走の候、皆様には益々と清祥のこととお慶び申し上げます。

国有林野事業の推進につきましては、常日頃より格別のご理解とご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

さて、当森林管理署の平成十二年度第四回目の立木の一概競争入札を十二月八日に施行したところ、皆様には業務ご多忙のところ、ご参加をいただきまして誠にありがとうございました。今回の入札三物件の中に、「国民参加の森林づくり」と「森林へのふれあい」を目的に、国と緑のオーナーが一緒になって育ててきた分収育林箇所が一件ありました。

昨今、木物価格が低迷するなど、販売環境は大変厳しい状況にありましたが、皆様のご理解とお力添えをいただきながら、最後まで有意義な販売PRをさせていただいたことに対しまして、改めて感謝申し上げます。

結果として、当地方の林業家の心意気な姿勢を地元住民はもとより、緑のオーナーの皆様にもご理解していただけたものと思っております。今回、皆様からいただきましたご厚情を糧に、森林・林業及び林産物の振興のために最大限努力して参りたいと考えておりますので、今後とも変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げます。お礼のご挨拶とさせていただきます。

敬 具

平成十二年十二月十二日

各 位

三陸中部森林管理署長